

■ご報告-群馬側の外来種調査 2017

群馬側担当理事 小鮒 守
理事 大山昌克

初めて尾瀬地域の本格的な植生調査が行われたのが第一次尾瀬学術調査です。原寛・水島正美両先生を中心に調査され1954年に整理されました。当時に確認された植生は約690種、外来種はオオバコやスズメノカタビラなど7種が確認されました。

【大量の山小屋物資調達】

その後群馬県および福島県の尾瀬保護専門委員や専門家により、植生調査および外来種調査は引き続き行われています。外来種の侵入は、意図的に運びこまれたものと意図せず入り込んだものがありますが、植生の進出としては、極めて短期間に入り込んでいます。

『尾瀬特別保護地区に外来種が入り込んだのは、オオバコ以外は比較的新しく戦後である』（尾瀬特別保護地区に侵入した平地性植物・馬場 篤・尾瀬の保護と復元 8. 1977.）と書かれています。

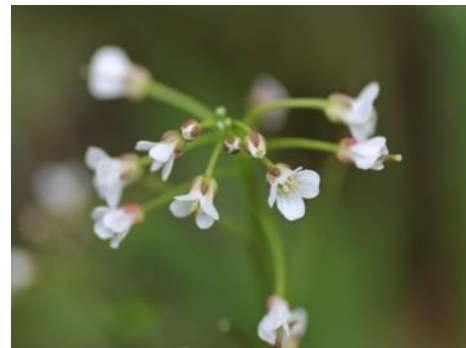
尾瀬ブームといわれる1956年以降、入山者が激増します。1960年代前半20万人、1960年代後半50～60万人と言われていました。1967年6月5日付け（読売）新聞には、「東武バス150台、大型貸切バス200台、自家用車もつめかけ一時交通網はストップ。大清水―尾瀬沼間（約8km）の三平峠は未明から昼過ぎまで延々と登山者の列が続いた。」と報じられています。入山者の激増と集中化は、山小屋宿泊者数も集中化します。外来種のオランダガラシは1950年代前半に山小屋が食材として導入栽培したもの



が逸失したものと
いわれていますが、
大量の食材などの
物資調達

に伴い、ロープなどに付着した種子が多く入り込むという、意図しない外来種侵入も、入山者の激増とともに増えたと考えられます。

また食材の食べ残しや生ごみを含むゴミも埋めていたため、後日レモンなどかんきつ類の発芽も多かったそうです。



<環境省指定：重点対策外来種-オランダガラシ（花）>

大量のハイカーによって、踏み固められ裸地化された土壌は、外来種にとって最高の立地となります。特に山小屋周辺は年間50万人以上のし尿や風呂の排水まで湿原や湖沼に流され、栄養過多の状態となりました。

1972年尾瀬専門委員の外来種調査では34種、1976年では福島県側の外来種として29種があげられています（「尾瀬の保護と復元7号」馬場 篤）。1979年には長蔵小屋周辺だけでエゾノギンギシが612本確認との報告もあります。1981年山の鼻地区の

調査では、20 科 39 種が確認されています。

文献には過去より尾瀬の外来種侵入に対し、対応策を急ぐように警告がたびたびなされてきました。しかしながらオランダガラシを代表格として、今ではもう手の施しようがないほど尾瀬の湿原奥深くまで繁茂している外来種もあります。



<環境省指定：総合対策-外来種ヒメジョオン>

【外来種はどのくらい侵入？】

尾瀬の植生、特に高山植物などは図鑑などで詳細に見ることが可能ですが、外来種となると、何が外来種なのか、どの程度入り込んでいるのか、なかなか見えづらいのが現状です。

第一次学術調査以来、尾瀬保護専門委員の方々から報告された植生報告書<尾瀬の自然保護（群馬県）1978年～、尾瀬の保護と復元（福島県）1970年～>や書籍、環境省管理報告書などを利用し、どのような種が外来種として報告されたのか、文献より抽出、リスト化を試みました。

約 60 年間にわたる各調査で見えた外来種と指摘された種数は、延べ 131 種に及びます。1991 年発行の『永遠の尾瀬』（菊地慶四郎/須藤志成幸著）でも 50 種を超える外来種が指摘されています。

尾瀬に侵入したものの、尾瀬の気候風土に適應できずにその後淘汰されたものも相当数あると思います。また尾瀬全体の植生

調査は短時間ではできず年月がかかります。ましてや会津駒ヶ岳や田代山も尾瀬国立公園に編入され、調査のフィールドはかなり広がりました。詳細は 2017 年より始まった尾瀬学術調査の調査結果（基礎調査）を待ちたいと思います。考えたくはありませんが、尾瀬植生の 5%以上も外来種……とにならないことを祈りたいです。



<環境省指定：総合対策-外来種エゾノギシギシ>

■国産-外来種ワースト 3.

過去 30 年以上にわたり大規模に繁殖

オオバコ、スズメノカタビラ、イヌタデ（アカマンマ）

■海外産-外来種ワースト 6.

過去 30 年以上にわたり大規模に繁茂

ヒメジョオン（北米）、シロツメクサ（欧）、エゾノギシギシ（欧）、オランダガラシ（クレソン）（欧）、コカナダモ（北米）、カモガヤ（欧/アジア）、クサイ（北米）、

【外来種は減らせるのか】

尾瀬保護専門員の指摘によれば山の鼻地区と並んで、外来種が繁茂している個所は、尾瀬沼集団施設と下田代集団施設（見晴）です。

現在の尾瀬沼周辺は 2 台のショベルカーが騒音とともに土砂の掘り返しなどの作業をしています。それは尾瀬沼ビジターセンター新築工事のためです。1964 年の第 1 回

目の新築(280m²)、2回目 1986年(492m²)、今回で3回目の新築となります。2020年供用開始予定の集団施設改変に伴う工事のため、大胆に湖畔の土壌攪乱、裸地化を行っています。

新しい建物でお客様を迎えたいのですが、湿原への土砂、濁水流入の懸念および外来種も相当数が侵入の上、繁茂が危惧されます。委託業者がまとめた報告書(尾瀬沼集団施設地区植生復元基本方針検討業務報告書-平成29年3月)には「懸念される事項」として外来種侵入の懸念はもちろん、湿原への土砂、濁水も危惧される旨の記載がされています。

尾瀬沼境界は外来種問題に対し難問山積の状態です。北米産のコカナダモ(※)の群落が再び現れました。引き続き行政は見ても見ぬふりを続けるのでしょうか?識者による再三の指摘にもかかわらず外来種を減らす有効策を講じないため着々と外来種は増加し、在来種にとっては大きな脅威がまだまだ続いています。

【尾瀬の外来植物広がる】

第4次尾瀬総合学術調査の初年度調査報告会が2018年1月10日に都内で開かれました。『尾瀬の外来植物広がる』のタイトルは2018年1月11日付け読売新聞の見出しです。

2018/1/11 新聞各紙(要旨)によれば、

一尾瀬国立公園の特別保護地区内に、ヨーロッパ原産の多年草「コテングクワガタ」などの外来植物が広がっている。今回の調査で、全ての山小屋周辺で生育が確認され、株数は在来種であるテングクワガタの10倍以上あり、一部では二つの種が交雑していた。コテングクワガタの場合、ヘリコプ

ターの基地がある大清水(片品村)や御池(檜枝岐村)に群落があった。群馬県自然史博物館大森威宏氏は「山小屋への物資や工事用資材搬送の際に運び込まれた可能性が高く、また外来種と混じり合うことで在来の純粋種が絶滅する恐れがある」と報じています

少なくとも「コテングクワガタ」の侵入はすべての山小屋周辺にまで広がりました。御池を代表とする尾瀬の入口には、多数の外来種群落があり、外来種の供給基地となっています。荷物運搬の頻度とともに外来種は拡散します。また外来種たちも虎視眈々と新天地を求めています。



<コテングクワガタ—知床財団 HP より>

【当会の調査】

私たちは2017年秋(9/30)に群馬側の鳩待峠と山の鼻周辺で外来種調査を行い、確認された外来種は30種を超えました。尾瀬保護専門委員会による調査データでは一度も記録されていない「ドクダミ」の群落を新発見(?)しました。多くの山小屋周辺は外来種の研究見本園と化しています。

(表:「ご参考」参照)

外来植物の侵入は、尾瀬在来の植物の脅威となる存在です。場合によっては遺伝子

が交じり合い純粋な種が絶滅する恐れがあります。尾瀬の地表、湿原内、水生部分まで既に入り込んでいます。今後ともモニタリングを継続していきます。

※コカナダモ：1982年星彰一氏により尾瀬沼で侵入を確認発表された北米産の水草（沈水植物）。環境省指定「重点対策-外来種」に指定されている。一時は沼全域にまでに繁茂し、尾瀬の水生植物に多大な影響を与えていたが、2010年当たりから急速に減少する。2016年には、再び「群落復活」が確認され国立環境研究所より発表された。在来種への影響が危惧されている。

【参考文献】

- ・尾瀬への移入植物について（1）. 須藤志成幸、片野光一. 尾瀬の自然保護 5. 1982.
- ・尾瀬への移入植物について（2）. 須藤志成幸、片野光一. 尾瀬の自然保護 5. 1983.
- ・尾瀬への移入植物について（3）. 須藤志成幸、片野光一. 尾瀬の自然保護 5. 1984.
- ・尾瀬特別保護地区に侵入した平地性植物. 馬場 篤. 尾瀬の保護と復元 7. 1976.
- ・尾瀬特別保護地区に侵入した平地性植物. 馬場 篤. 尾瀬の保護と復元 8. 1977.
- ・下田代湿原へ侵入した平地性植物. 馬場 篤、五十嵐徳三. 尾瀬の保護と復元 18. 1987.
- ・尾瀬地域に侵入した移入植物とその対策について. 大須賀昭雄、檉村利通、樋口利雄. 尾瀬の保護と復元-特別号. 2007.
- ・永遠の尾瀬-自然とその保護-. 菊地慶四郎、須藤志成幸. 1991. 上毛新聞.
- ・尾瀬は病んでいる. 加藤久晴. 1978. 大月書店.
- ・高度成長期-日本の国立公園. 村串仁三

郎. 2016. 時潮社.

- ・緑の侵入者たち-帰化植物のはなし-. 浅井康宏. 1993. 朝日選書. 朝日新聞社.
- ・2018/1/18付：朝日新聞・読売新聞・福島民報「尾瀬の外来植物広がる」
- ・知床財団-知床自然センターHP (2018/1/31)
<http://center.shiretoko.or.jp/natureblog/2017/06/7589.html>

No.	種名	2017-9/30 鳩待峠/ 山の鼻 チェック	2016 外来 生物法	環境省 駆除す べき 移入種	第一次尾 瀬 総合学術 調査-原/ 水島	宮前 俊男	尾瀬の保 護と復元 -7 馬場篤	1980 原寛追 報	尾瀬の自 然保護5須 藤-片野	尾瀬の自 然保護6須 藤-片野	尾瀬の自 然保護7須 藤-片野	尾瀬の保護 と復元-15 馬場篤	尾瀬の保存 と復元18馬 場/五十嵐	永遠の尾瀬 菊地慶四 郎・須藤志 成幸	尾瀬の保 存と復元 21大須賀	外来種 調査 内海先 生	尾瀬の 保護と 復元特 別号	尾瀬地域の 植生相 尾瀬の自然 保護-記念号	2017- 0909-保 護財団 HP	
36	キヌガサギク										○									
37	キャベツ					○														
38	キンミズヒキ	●		○		○					○			○				○		
39	クサイ						○		○		○	○		○				○	○	
40	クサキョウチクソウ							○												
41	クロコヌカグサ						○													
42	クロバナエンジュ										○			○						
43	ケキツネノボタン	●							○		○			○					○	
44	ゲンノショウコ	●							○		○		○	○					○	○
45	コアカザ (環境省のみ)			○																
46	コウガイゼキショウ								○		○			○					○	
47	コウゾリナ	●								○	○			○					○	
48	コウリントンボボ		総合対策													○				
49	コオニタビラコ					○										○				
50	コカナダモ		重点								○			○		○			○	
51	コケオトギリ					○			○		○			○					○	
52	コゴメバオトギリ										○									
53	コシロギク											○								
54	コテングクワガタ																			○
55	コナスビ			○							○			○					○	○
56	コヌカグサ						○				○			○		○		○		
57	コハコベ	●		○		○			○		○	○		○						
58	シケシダ								○		○			○					○	
59	ジシバリ					○														
60	シバザクラ														○					
61	ジャガイモ					○														
62	シャスターデイジー (園芸種)							○								○				
63	シラゲガヤ			○			○						○							
64	シロザ			○			○							○						
65	シロツメクサ	●		○		○		○	○		○			○		○			○	○
66	スイバ	●		○		○								○					○	
67	スギナ	●			○	○			○		○			○					○	
68	スズメノカタビラ	●			○	○			○		○			○					○	○
69	セイタカタウコギ (環境省のみ)			○																
70	セイヨウオダマキ (園芸種)																○			
71	セイヨウタンポポ	●				○						○				○				○
72	セイヨウノコギリソウ			○							○					○				
73	セイヨウミヤマグサ										○									
74	セリ								○		○			○					○	
75	ダイコン					○								○						

No.	種名	2017-9/30 鳩待峠/ 山の鼻 チェック	2016 外来 生物法	環境省 駆除す べき 移入種	第一次尾 瀬 総合学術 調査-原/ 水島	宮前 俊男	尾瀬の保 護と復元 -7 馬場篤	1980 原寛追 報	尾瀬の自 然保護5須 藤-片野	尾瀬の自 然保護6須 藤-片野	尾瀬の自 然保護7須 藤-片野	尾瀬の保護 と復元-15 馬場篤	尾瀬の保存 と復元18馬 場/五十嵐	永遠の尾瀬 菊地慶四 郎・須藤志 成幸	尾瀬の保 存と復元 21大須賀	外来種 調査 内海先 生	尾瀬の 保護と 復元特 別号	尾瀬地域の 植生相 尾瀬の自然 保護-記念号	2017- 0909-保 護財団 HP
76	タチイヌノフグリ			○								○				○			
77	タチオランダゲンゲ			○								○							
78	タニソバ							○	○		○	○		○				○	
79	タネツケバナ	●			○	○	○		○		○			○				○	○
80	ダンドボロギク (環境省のみ)			○															
81	ツメクサ				○	○	○		○		○	○		○				○	
82	ツルマンネングサ			○								○							
83	テングクワガタ								○		○			○					
84	ドイツトウヒ (一ノ瀬)															○			
85	ドジョウツナギ														○				
86	ドクダミ	●																	○
87	ナガバギンギン	●	総合対策	○			○												
88	ナガハグサ			○			○									○			○
89	ナギナタコウジュ			○							○	○		○				○	
90	ナズナ			○		○													
91	ナツシロギク (環境省のみ)			○															
92	ヌスビトハギ (環境省のみ)			○															
93	ネギ					○													
94	ネズミノオ								○		○			○				○	
95	ノチドメ					○												○	
96	ノブキ	●								○	○			○				○	
97	ノボロギク			○					○		○			○		○		○	
98	ノミノフスマ			○	○	○	○		○		○	○		○				○	○
99	ハキダメギク															○			
100	ハコベ					○													
101	ハナガサキク			○								○	○						
102	ハルガヤ (環境省のみ)		総合対策	○															
103	ハルザキヤマガラシ															○			
104	ハルジオン	●		○		○	○			○	○			○		○		○	
105	ヒナギク (園芸種)								○		○			○					
106	ヒメサユリ (長蔵小屋)															○			
107	ヒメジョオン	●	総合対策	○		○	○		○		○	○	○	○	○	○	○	○	○
108	ヒメスイバ															○			
109	ヒメヘビイチゴ	●							○		○			○				○	
110	ヒメムカシヨモギ			○		○	○									○			
111	ヒレハリソウ (コンフリー)			○				○				○	○			○			○
112	ブタナ															○		○	
113	フランスギク		総合対策	○		○	○									○			

No.	種名	2017-9/30 鳩待峠/ 山の鼻 チェック	2016 外来 生物法	2013 環境省 駆除す べき 移入種	第一次尾 瀬 総合学術 調査-原・ 水島	宮前 俊男	尾瀬の保 護と復元 -7 馬場篤	1980 原寛追 報	尾瀬の自然 保護5須 藤-片野	尾瀬の自然 保護6須 藤-片野	尾瀬の自然 保護7須 藤-片野	尾瀬の保護 と復元-15 馬場篤	尾瀬の保存 と復元18馬 場/五十嵐	永遠の尾瀬 菊地慶四 郎・須藤志 成幸	尾瀬の保 存と復元 21大須賀	外来種 調査 内海先 生	尾瀬の 保護と 復元特 別号	尾瀬地域の 植生相 尾瀬の自然 保護-記念号	2017- 0909-保 護財団 HP
114	ベニバナゲンノシ	●								○	○			○				○	
115	ヘラオオバコ									○	○					○			
116	ミゾソバ				○		○		○	○	○		○	○			○	○	
117	ミツバ								○	○	○			○				○	
118	ミツバツチグリ																○		
119	ミドリハコベ (ハコベ)		○															○	
120	ミナモトソウ										○								
121	ミノボロスゲ				○				○	○	○			○			○		
122	ミミナグサ		○			○	○					○							
123	ミヤマトウバナ	●			○				○	○	○			○					
124	ムシトリナデシコ															○			
125	ムラサキツメクサ		○									○				○			
126	メマツヨイグサ										○					○			
127	ヤエザキオオハンゴウソウ		緊急													○			
128	ヤノネグサ								○	○	○			○				○	
129	ヤマスカボ				○	○	○		○	○	○			○					
130	ヨモギ	●								○	○			○				○	○
131	ワスレナグサ		○			○	○					○	○	○				○	

計 31種

●印=2017確認(坂本/大山/小鮒)

●No.黄色:環境省のみ

・外来生物法～2016

※緊急-緊急対策外来種

※重点-重点対策外来種

※総合-総合対策外来種

※産業-産業管理外来種

【参考文献】

- 1尾瀬国立公園管理計画書・環境省関東環境事務所(平成25/8月)、 駆除すべき移入植物一覧-P32~P34
2. 第一次尾瀬総合学術調査(原・水島)
3. 尾瀬の保護と復元7-尾瀬特別保護地域に侵入した平地性植物-馬場篤-1976
4. 尾瀬の保護と復元11-馬場篤-尾瀬に侵入した帰化植物と対策-1980
5. 尾瀬の保護と復元17-馬場篤-帰化植物-1986
6. 尾瀬の保護と復元18-馬場篤、五十嵐徳三-下田代湿原へ侵入した平地性植物-1987
7. 永遠の尾瀬(菊地慶四郎、須藤志成) -平成3年(1991)上毛新聞-移入植物(P187-190)
8. 尾瀬の自然5号(群馬県) 尾瀬の移入植物について(1) 須藤志成幸、片野光一、1982
9. 尾瀬の自然6号(群馬県) 尾瀬の移入植物について(2) 須藤志成幸、片野光一、1983
10. 尾瀬の自然7号(群馬県) 尾瀬の移入植物について(3) 須藤志成幸、片野光一、1984
11. 尾瀬の保護と復元-特別号-尾瀬地域に侵入した移入植物と対策-2007-大須賀昭雄、樫村利道、樋口利雄
12. 尾瀬の保護と復元-特別号-下田代丈堀南沢冠水地跡の植生変化-2007-大須賀昭雄、樫村利道、樋口利雄
13. 尾瀬の自然保護-尾瀬国立公園誕生記念号、尾瀬地域の植生相-2008-吉井広始/片野光一/鈴木伸一/大森威宏(P147~176)
14. 環境省HP外来生物法-特定外来生物-生態系被害防止外来種リスト
15. 尾瀬の保護と復元15-尾瀬特別保護地区に侵入した平地性植物の分布とその変遷-馬場篤-1984. 2018/0220
16. 尾瀬の保存と復元21. 見晴付近の平地性植物の分布状況. 大須賀昭雄. 1994.
17. 尾瀬保護財団HP

尾瀬外来種-補足資料

■2013～2017 外来種確認調査 メモ (鳩待峠・入山口・山の鼻山小屋周辺)

種名	環境省 尾瀬-管理計画書 指定駆除すべき外 来種指定	鳩待峠			山の鼻・ ビジターC周辺		
		最終確認日			最終確認日		
		2013 7/13	2014 10/4	2017 9/30	2013 7/13	2014 10/3	2017 9/30
(海外外来種)							
シロツメクサ (重点対策・欧)	駆除	●	●	●	●	●	●
エゾノギンギシ (総合対策・欧)	駆除	●	●	●	●	●	●
ナガバノギンギシ (総合対策・欧)	駆除			●			
ギンギシ				●			
オランダガラシ (重点対策)	駆除				●	●	●
セイヨウタンポポ (重点対策・欧)		●		●	●	●	●
ハルシオン (北米)	駆除			●			
ヒメジョウ (総合対策・北米)	駆除	●	●	●	●	●	●
オランダミミナグサ							
ムラサキツメクサ (アカツメクサ)	駆除		●		●		
オオスズメノテッポウ (欧～西アジア)							
メマツヨイグサ (北米)							
セイヨウノコギリソウ (欧)							
オオハンゴンソウ (緊急対策外来種)							
(国内外来種)							
オオバコ	駆除	●	●	●	●	●	●
スギナ					●	●	●
ヨモギ				●			
ケキツネノボタン		●	●	●			
スズメノカタビラ				●			
カタバミ	駆除		●	●			●
イヌタデ(アカマンマ)	駆除		●	●			
スイバ				●			
コハコベ							●
コアカザ				●			
キンミズヒキ							●
カモガヤ (産業管理)				●			
アキノウナギツカミ				●			
タネツケバナ				●			
ヘビヒメイチゴ							●
ゲンノショウコ				●			●
ベニバナゲンノショウコ				●			●
ノブキ				●			
コウゾリナ				●			
オオスズメノテッポウ				●			●
ミヤマトウバナ				●			
ドクダミ				●			
参加指導員		2名	5名	3名	2名	2名	3名